

第 10 回目（1993 年 12 月 11 日放送）

【いろはがるた】

「総領の甚六」: The eldest son is a block head.

※大久保家は男 6 人、女 4 人の 10 人兄弟であり、大久保は 8 番目の子供だった。跡継ぎだったので、食事の時には親の隣に座っていたという話もしている。

【話の内容】

ヒロの大久保のところに、ワイパフに住む女性から電話がかかってきた。女性はエヴァ出身のサトウという女性で、もともとは福島出身だという。大久保は 1924 年に 2 か月間、キリスト教のアパートメント寄宿舎でプランテーションの勉強をしたことがあるが、そのエヴァプランテーションだけで、福島からのサトウさんが 10 人、新潟からのサトウさんが 9 人いた。これだけサトウがいれば、誰かわからなくなるので仕事の名前を付けて「カチケン¹サトウ」のように呼んだ。

ハワイ島コナコーヒーが初めてアメリカで販売されたのは 1845 年。ハワイ植民新聞によると、最初は 248 パウンドしか輸出されていなかったコナコーヒーだが、その輸出量は年々増えていった。

現在 4 時間半ほどでハワイ島を一周できるが、1909 年 8 月 9 日の「ハワイ植民新聞」の記事によると、7 月 11 日、オラアプランテーションのオーナー Mr. ワット (Jno Watt) は自動車で 16 時間かけてハワイ島を一周 (約 253 マイル) 回った。

1928 年に大久保がコナに来た翌年車を買ったが、それは 250 ドルかかった。また、コナからヒロへ行くのに 6 時間かかった。うらも、30 年ほど前にシボレーを買ったが 350 ドルかかった。現在では道もきれいに整備され、車の性能も上がり便利になった。

「yesterday、today、tomorrow」というように、移民資料館は次の世代に歴史をつなぐ大切な役割がある。多くの人がいろんな場所から自分の親を探すような親孝行の人がコナの移民資料館を訪れる。

【曲】

「東京セレナーデ」

【サブジェクトタグ】

プランテーションの暮らし

音トビ (18 : 23-18 : 28)、(18 : 40-18 : 44)

¹ Cutting cane のこと。サトウキビを切る作業。